

国語科研修会 報告書

三島正敬

研究授業、研究協議について

今回の研究授業では『土佐日記』を英訳との比較を交えて実施した。その中で、日本独特の言葉が持つ力を知るという探求重視の展開とした。一度校内の研究授業で同様の形の授業を行っていたため、難しい内容ながら生徒たちは迷いなく取り組むことができた。

ご指摘では、生徒の事前知識について多くいただき、今回の内容を実施するにあたっては特に紀貫之の人物的背景などを知っておく必要があった。実際に授業で出典や人物などは扱ったものの、そこまで考慮に入れて研究授業に臨むことができたかどうか振り返る必要があると感じた。

総じて、国語と英語のクロス授業を通して日本語の奥深さを体感する授業であったが、そこには歴史的背景や作品の特徴など、前提知識が多く必要となってくるため、念入りな準備が必要であると考えられる。

今後の目標について

今回の研修を通して、生徒の興味関心を惹く授業には、多くの方法があると感じた。

塩田教諭が行ったクロス授業が代表される他に、体験型の授業やアクティブ・ラーニング型の授業なども方法として挙げられる。また、古典をより深めていくためには社会科とのクロス授業も効果的であり、今回ご指摘にあった歴史的背景の理解については、社会科とクロスすることでより理解を深めていくことができる。さらに、漢文においては中国語との比較をしてみるなど、多言語比較を行うことも興味深く、クラス集団の中に得意な生徒が居た場合、活躍の場にもなるため、クラスの特性を生かした授業展開を本校では積極的に取り入れていきたい。

総じて、研究授業だけにとどまらず、日々の授業から他教科との繋がりを意識し、ただ席に座って学ぶだけでなく、楽しく学ぶ機会を設けることができるよう教材研究に励みたい。

反省

今回の授業では、教員の指示が十分に生徒へ届いていない時があり、ただでさえ内容としては難しいものであるため、丁寧な指示が必要であった。また、議論を多くする授業の型であったために、生徒もざわつくことが多く、その中で大きな声を出して無理矢理指示を出すのではなく、適切な声かけや、事前に静かにするタイミングを定めるなど、方法は多くあるため、次回以降の反省とする。

授業のようす

